

令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会 御質問・御意見
【 平瀬川（多摩川合流部周辺） 】

No.	御質問・御意見 (いただいた原文をそのまま掲載しています。)	回答
1	ソフト面で質問です。 人が一人亡くなっていることから、市役所からの連絡がもっと必要だと思います。 サイレンや拡ちょう器等で知らせる努力はしないのですか。	避難勧告等の情報伝達手段としては、音声情報による同報系無線、防災テレフォンサービス、かわさきFMの他、文字情報として、市ホームページ、登録制メール（メールニュースかわさき「防災気象情報」）、緊急速報メール（エリアメール）、Twitter、防災アプリ（かわさき防災アプリ）、テレビ神奈川データ放送、ケーブルテレビ（YOUテレビ、ITSCOM、J:COM）への文字放送、要支援者施設への一斉FAXがあり、更にLアラートへの配信により、NHK等のテレビ局や、民間大手ポータルサイト、民間防災アプリ等に一斉に配信されるようになっています。台風の際には事前準備が可能なことから、風雨等の状況や情報の種別に応じて、最適な手法で情報発信を行ってまいります。 なお、避難指示・避難勧告が発令された場合には、気象条件に応じ、より市民の皆様にはわかりやすいよう、各種の伝達方式との優先順位の比較や時間帯等を考慮したうえで、同報系防災行政無線の屋外受信機から、サイレンでお知らせいたします。 また、消防職員、区職員、消防団員、警察官等及び自主防災組織等と連携を密にし、組織的に避難誘導を行ってまいります。
2	避難指示の防災無線は全く聞き取れません。 要方法改善！	
3	避難は広報車のみでは豪雨時は聞こえませんので、個別指示も必要です。	
4	現地での説明会を開催して欲しい。	短期対策（護岸改良工事）の概要や工事に関するお知らせとして、本年9月11日に沿川住民の皆様には資料を配布させていただきましたので、御参照いただきますようお願いいたします。また、現地に工事のお知らせ等を御案内する掲示板を設置しておりますので、そちらも併せて御覧いただきますようお願いいたします。 なお、現地での説明会の開催は予定しておりませんが、工事内容等について御不明なことがございましたら、高津区役所道路公園センターにお問い合わせください。
5	スマホ等で状況が解かるのはいつから。	本年9月14日から、水位計と監視カメラに関する情報を本市ホームページで公開させていただきました。水位計や監視カメラについて御不明なことがございましたら、建設緑政局河川課にお問い合わせください。
6	カメラ設置時にも説明を現場でお聞きしたい。	
7	排水ポンプの設置箇所、排水先、各機性能、稼働条件を地図併用し、図示してほしい。	排水ポンプの設置箇所については、右岸側の平瀬橋のやや上流にある水門付近に2機配備し、さらに上流の日本理化学工業株式会社付近に1機追加配備する予定としておりまして、排水ポンプを稼働させた際の排水先は、平瀬川となっております。 性能については、3機ともにガソリンエンジン駆動型、吐き出し量（最大）毎分3.3立方メートル、全揚程（ポンプが水をあげる高さ）28メートルとなっております。 稼働条件といたしましては、平瀬川の水位が2.5メートルの際にポンプを配置し、水位が3.2メートルになった際に水門を閉めるのと同時にポンプでの排水を開始いたします。

令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会 御質問・御意見

【 平瀬川（多摩川合流部周辺） 】

No.	御質問・御意見 (いただいた原文をそのまま掲載しています。)	回答
8	指定緊急避難場所で川崎市総合教育センターは使用が可能でしょうか。 ※西高津中学校が令和元年の台風時に多数の方が避難をしており、密の状態であったので、川崎市総合教育センターが使用できるようになることが望ましい。	令和元年東日本台風及び新型コロナウイルス感染拡大防止の観点 を踏まえ、危機管理室から教育委員会を通じて、各避難所のスペースの確保のため、普通教室の活用等、多くの住民等が避難してきた際に生命を守る行動が可能になるように、スペースを最大限開放していただくよう依頼しているところです。 川崎市総合教育センターの利用については、現在、予定しておりませんが、西高津中学校の収容量にはまだ余裕があることから、現在、区と学校とで協議を行っているところです。
9	資料P2に「多摩川合流部において90mm/h相当の降雨に対応できる河道整備が完成している」※但し五反田川放水路完成後とありますが、この放水路事業が完成すれば、平瀬川の越水は軽減されると考えてよいでしょうか。また、完成はいつ頃になるのでしょうか。	平瀬川については、時間雨量50ミリの降雨に対応した河道の整備が完了しており、多摩川合流部においては、時間雨量90ミリ相当の降雨に対応できる河道整備が完了している状況です。多摩区生田地内で整備中の五反田川放水路の完成により、五反田川の洪水を直接多摩川へ放流させることで、多摩区生田から下流域の五反田川及びニヶ領本川、平瀬川の流下能力が時間雨量90ミリまで対応可能になり、下流域の浸水被害軽減に寄与するものと考えております。 また、五反田川放水路については、令和5年度の完成を予定しております。
10	ごくろうさます。 多摩川に平瀬川が流入するところに大きな中州ができています。今回、少し撤去をしたようですが、今後、この中州を撤去する計画はあるのでしょうか。数年前までは、水面下であんな大きな中州になるとは思ってもいませんでした。河川管理の難しさを痛感しています。温暖化による異常な豪雨は、これからも多いと考えられます。河川管理の抜本的改善が望まれるのではないのでしょうか。	平瀬川と多摩川の合流部である多摩川の土砂堆積については、今年の5月から6月にかけて、多摩川の管理者である国土交通省により、河道管理上、必要な箇所の土砂撤去を実施したところです。現在のところ、今後の予定については伺っておりませんが、多摩川に堆積した土砂の河道掘削については、流下能力を向上させる取組であり、本市としても浸水対策として有効な対策と考えておりますので、多摩川の管理者である国土交通省に要望を行ってまいります。
11	多摩川と平瀬川の合流点に礫間浄化システム？があって運用はすでに終わっているようですが、当該施設が呑み込める水の量はいかほどですか。処理能力ではなく単なる飲み込める容量です。	当該施設は、礫間（れきかん）接触酸化法による河川水の浄化施設であります。多摩川の水質改善に伴い、現在は使用されていません。 本施設は、自然流下で水を浄化槽内を循環させる構造となっており、多摩川放流口での止水施設が設けられていないことから、水の貯留はできない構造となっております。
12	平瀬川のピーク水位がパラペット上端から65cmということ は、平瀬橋の舗装面も水に浸かる水位だったということですか。とするならば平瀬橋自体が平瀬川の流れを阻害したことになりますか。	平瀬橋水位観測所が電源喪失によりデータを欠損したことから、当時の平瀬橋の状況を正確に把握することは困難ですが、推測される水位データから、平瀬橋が水流に干渉していたものと想定されます。
13	パラペット上端にベニヤ板を張り平瀬川が越水しない前提になったのに、浸水はするから避難はしないといけないのでは越水しない対策自体が安心のよりどころにならない気がします。又、今回の越水対策で避難判断水位は変わりますか？（高くなりますか）	仮設板については、アクリル板が設置されるまでの暫定対策として設置したもので、アクリル板については、本年度中に令和元年東日本台風の際に浸水が確認された区間において、観測した最高水位の高さ以上で設置する予定です。 この対策により、堤防からの越水による被害を軽減するものと考えておりますが、当該地区は地盤が低い地域であり、平瀬川の水位が上昇した際に雨水を排水できずに内水氾濫を起こす可能性があることから、万が一の場合に備えてソフト対策として、タイムラインを作成しておりますので、御活用ください。 なお、避難判断水位については、今回の対策の実施により、変更することはございません。

令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会 御質問・御意見

【 平瀬川（多摩川合流部周辺） 】

No.	御質問・御意見 (いただいた原文をそのまま掲載しています。)	回答
14	大型土嚢は水位が上がるたびや大雨の度に、お役所さんが封じ切る作業をすることになるのですか。悪天候、強風の中でクレーン作業をするのは別の災害が心配です。	降雨中の作業は危険を伴うため、台風の到来が予想される2日前頃に、大型土のうによる閉塞を予定しております。
15	避難判断水位の時点では何を想定して「避難」を求めるのでしょうか。単に基準だから規定だから避難指示を出しても住民側の意識とかけ離れてしまう。「越水するから避難」と言うのならば理解はしやすいが、越水はしなくても浸水はするとすれば浸水の方が早く起きますよね。 ・避難判断水位と浸水する事象と越水する事象のタイミングは随分異なり、避難後に浸水し越水し家が冠水（被災）しても避難所でその状況がつかめませんし、水位が下がって帰宅できるのかも分からないのでした。 ・避難所運営について、避難指示が出て避難所開設情報も検索できましたが、避難人数が0のままでしたから誰も避難した実績がないと思ったまま、母を連れて避難したら現実には収容しきれないほどの人数が既に避難していました。受け入れも紙ベースの記入用紙がなくなり、その増刷で受付窓口に係員がいなくなってしまったので、入り口は人で溢れました。次から次へと避難してくる中、まず部屋に落ち着いたのち、各家の代表者が受付をするように誘導しました。	「避難判断水位」とは、水防法の規定により、国土交通大臣または都道府県知事が、周知することが義務付けられている水位情報の1つであり、市町村長が「避難準備・高齢者等避難開始」を発表する目安となる水位として、市民の皆様に氾濫への注意喚起を行うとともに、要配慮者の避難に要する時間等を考慮して設定されております。 本市では、こうした水位情報や、雨の強さ、降雨の見通しなどを総合的に判断し、市民の皆様方が避難を完了する時間等を考慮して避難情報を発令しております。 降雨が収まった後でも、上流からの流れの影響で水位がさらに上昇したり、雨水で地盤が緩み、土砂災害が発生する可能性がありますので、雨が止んでもすぐに避難所から退避するのではなく、避難所職員からの情報や案内に従っていただくようお願いいたします。 昨年度は受付で避難者情報を記載していただいた上で、避難場所へと移動していただいております。受付に時間を要しておりました。その点については、令和元年東日本台風での検証を踏まえ、風水害時の緊急避難場所運営マニュアル標準例を見直し、風水害時においては、受付で「受付カード」をお渡しし、避難場所へ移動後に受付カードに氏名や連絡先等を御記入いただき、避難所を出られる際にお返しいただくなどの対応を行ってまいります。
16	大型土のうを置いたところが、視界が悪く夜間も暗くなってしまったので照明をつけてほしい。	大型土のうを設置した、多摩川の管理者である国土交通省と調整を行い、本市で照明の設置を行う方向で検討してまいります。
17	平瀬川における取組で、河川を今のまっすぐの状態にしたのはいつなのか。	従前の平瀬川は上之橋付近で東に折れ、溝口を経て多摩川に流入していましたが、たびたび豪雨時に氾濫を起こしていたため、昭和15年から昭和20年にかけて、県営多摩川右岸農業水利改良事業の一環として、多摩川に繋がるトンネル（流下能力30m ³ /s）が築造され、現在の状態になりました。
18	コロナ禍の中での避難では、車の所有者用の駐車場の確保が必要であり、教育センター等、舗装した駐車場の確保及び中学校での車両駐車場整備も必要です。また体育館内での家族ごとの隔離壁の準備もお願いします。	避難場所への避難については、車での避難は渋滞を招き、緊急車両の通行の妨げになるばかりでなく、事故、道路冠水などによる避難者の被災といった危険性があることや、学校等の避難場所に駐車スペースの確保が困難であることから、徒歩での移動を原則としております。また、車両の避難場所の確保については、自助または地域コミュニティにおける共助の取組として行っていただくものと考えております。 本市では、避難所（場所）における基本的な感染対策として、①スペースでの十分な換気、②人と人との距離を保つ、③マスク着用、④手洗いなどの手指衛生等を徹底することとしており、現在のところ人と人を分離する壁等の導入は予定しておりませんが、症状等がある方を隔離するための別室の確保や間仕切用テントについては、配備を予定しております。

令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会 御質問・御意見
【 平瀬川（多摩川合流部周辺） 】

No.	御質問・御意見 (いただいた原文をそのまま掲載しています。)	回答
19	「令和元年東日本台風による河川関係の浸水に関する住民説明会」に関して、平瀬川による被害についての質問です。 提出先の区分がつかないので、両方にメールします。 現象１：多摩コープ(久地2-3-11)のあたりでは堤防からの漏水が確認されている。 現象２：多摩コープ(久地2-3-11)の東側では道路のコンクリートの下に空洞がある。 現象３：多摩コープ(久地2-3-11)の前では道路が陥没したり、コンクリートが持ち上げられる被害があった。 現象４：●●宅(久地2-3-9)周辺では川の増水に伴い地面から水が湧き出ることが多々ある。 以上のことから越水対策だけでなく平瀬川の堤防そのものの調査が必要と考えます。 また堤防を貫通している排水溝に対する指導の結果はどうなっているのでしょうか。 特に転出してしまった家(久地2-3-6)の排水溝が心配です。 以上よろしくをお願いします。	堤防の調査については、本市が所管する河川管理施設等を計画的、効率的に維持管理していくことを目的に、「川崎市河川維持管理計画」に基づいた詳細点検を実施しているところです。御指摘頂いております当該箇所の護岸の詳細点検については、今年度実施いたしましたので、今後は、その点検結果に基づき必要な対策について検討してまいります。 また、民有地から接続されている排水管については、逆流防止対策済みが1箇所、閉塞済みが5箇所、所有者に対策の依頼済みが4箇所となっております。
20	26日説明会で、移動式の排水ポンプ新規に理化学の排水に対して対応設置のお話が出ましたが、私の知りうる限りでは、理化学に隣接の久地ゴルフの駐車場含む施設より、排出される雨水が理化学に設置のU字溝に多く雨が降ったときに、滝のよう流れ込むのを度々確認しております。 対策の参考になればと思います。 平瀬川の仮工事で、設置されているベニヤ板の接合が川の流れに対し、逆接続のように見受けられる。 また、ベニヤ板の水圧がフェンスのポールにかかる構造と思われますが、計算上耐えられるのでしょうか？	情報提供いただきありがとうございます。大雨時に排水の状況を確認してまいります。 また、仮設板どうしの接合部については、多摩川からの影響を考慮し、平瀬川の上流に向けて接合しております。構造については、アクリル板が設置されるまでの暫定対策として設置したものであり、アクリル板ほどの強度はないものの、洪水時のうねりなどによる一時的な水位上昇に対応できるものと考えております。